



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1376 2023年10月23日

ARIB からのお知らせ

10月「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年10月1日から10月31日までの間を「受信環境クリーン月間」と定め、放送電波受信障害防止に向けた集中的活動を実施しています。会員の皆様も電波障害の防止になお一層のご協力をお願いします（詳細はARIB ニュース No.1369 2023年9月4日を参照ください）。

第198回 ARIB 電波利用セミナー開催のお知らせ 「次世代の ITS 通信」をはじめとする自動運転を巡る最近の政策動向

昨今の自動運転技術の進展により、我が国においては、2021年に自動運転レベル3（条件付自動運転）の自動運転車両が市場に投入されるなど、自動運転時代は目前まで迫ってきている一方で、高速道路の分合流などの状況において、より安全で円滑な自動運転を実現するためには、V2X通信（Vehicle to X (=everything) の略。車と車、車と道路など、車と周囲のあらゆるものとの通信）による支援が不可欠であり、欧州・米国をはじめとする諸外国においても、V2X通信の活用に向けた検討が活発に進められています。

そのような背景から、国際的にV2X通信向けの利用が進められている5.9GHz帯の利用方策等について検討を行うため、総務省では「自動運転時代の“次世代のITS通信”研究会」を開催し、自動運転時代の“次世代のITS通信”の活用を想定するユースケースや5.9GHz帯V2X通信向けの割当方針、導入ロードマップの検討の方向性などについて幅広いステークホルダーとの議論を通じて、本年8月に中間取りまとめを行いました。

さらに、政府全体で取り組んでいる「デジタルライフライン全国総合整備計画」の検討結果等を踏まえ、自動運転の社会実装に向けたデジタルインフラの整備が今後進められていくことが想定されております。

今回のARIB電波利用セミナーでは、総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移动通信システム推進室課長補佐の高橋信一郎氏をお迎えして、“次世代のITS通信”をはじめとする自動運転を巡る最近の政策動向として、「自動運転時代の“次世代のITS通信”研究会」中間取りまとめの内容、「デジタルライフライン全国総合整備計画」の検討状況、自動運転の社会実装に向けたデジタルインフラ整備の推進に向けた取組などについてご講演いただきます。

会員の皆様には、是非ともご参加下さいますようにご案内申し上げます。

記

- 1 日 時： 2023年11月28日（火）16時から17時まで
- 2 場所・形態： オンラインセミナー（Zoom ウェビナー使用）
- 3 題 名： 「“次世代の ITS 通信”をはじめとする自動運転を巡る最近の政策動向」
- 4 講 師： 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室課長補佐 高橋信一郎氏
- 5 参 加 者： 180名程度（定員になり次第締め切らせていただきます。）
ARIB正会員、賛助会員対象
- 6 申 込 先： 当会ホームページの「講演会等開催案内」よりお申込みください。
(<https://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)
- 7 参 加 費： 無料
- 8 問 合 せ 先： ARIB電波利用セミナー事務局 熊谷（幸）
TEL: 03-5510-8592 E-mail: arib-seminar2023@arib.or.jp

ARIB の動き

日中韓情報通信標準化会議 IMT WG 第 68 回会合 概要報告

1. 会合の概要

本会合は、日中韓3ヶ国の標準化機関（SDO: Standards Development Organization）における ITU-R, APT, 3GPP 等の IMT (International Mobile Telecommunications) 国際標準化に対する取り組みに関する情報・意見交換を行うと共に、ITU-R SG5 Working Party 5D (WP 5D) 会合等の国際会合向けの共同寄与文書作成を行うことを目的としており、年3回開催されています。

日 程： 2023年10月11日（水）、12日（木）

場 所： Web 会議

出席者： 各国 SDO のメンバーとして、ARIB から 21 名（事務局からは西岡理事、加藤担当部長、佐藤（拓）主任研究員）、CCSA(中国) から 50 名、TTA(韓国) から 17 名が参加

2. 主要結果

- (1) AWG 第 31 回会合、APG23 第 6 回会合、WP 5D 第 44 回会合、SG 5 第 20 回会合及び 3GPP 会合等の結果を共有し、今後の検討課題について意識合わせを行いました。
- (2) 2023 年 11 月から開催予定の RA-23 会合及び WRC-23 会合に向け、各国の準備状況についての情報共有および共同寄書作成に向けた議論を行い、継続検討項目、作業内容を特定しました。
- (3) IMT の名称に関する ITU-R 決議 56 の改訂案（主には IMT-2030 という呼称を新たに定義）及び IMT-2020 及び IMT-2030 の将来開発プロセスの原則に関する ITU-R 決議 65 の改訂案について、RA-23 会合での承認を目指し、共同寄書作成に向けて作業を継続す

ることとなりました。

(4) WRC-27 に向けた新議題として検討されている IMT 周波数の追加特定に関する具体的な候補周波数や、IMT 周波数での移動衛星業務の利用 (IMT 携帯端末と IMT 衛星間の直接通信) の課題について、WRC-23 に向けて意見交換を継続することとなりました。

3. 次回会合のスケジュール :

次回は 2023 年 1 月に開催予定。

ITU-R WP7C 会合における宇宙天気センサ関連の概要報告

WP7C (Working Party 7C : 7C 作業部会) は、ITU-R の SG7 (Study Group 7 : 第 7 研究委員会) の下に設置され、宇宙天気センサを含むリモートセンシングについて検討している専門家会合です。

1. 会合の概要

日 程 : 2023 年 10 月 4 日 (水) ~10 月 11 日 (水)

場 所 : スイス・ジュネーブ (Web 会議併用)

参加者 : 各国、各団体から約 180 名が参加 (日本は、総務省基幹・衛星移動通信課電波利用分析官の作田吉弘氏を団長に 13 名が参加。当会から横山次長が参加。)

2. 宇宙天気センサに関する主要結果

太陽活動は、航空無線、電力網、通信・放送・測位システムなどの社会インフラに異常を発生させ、我々の社会経済活動に多大な影響を与える恐れがあります。太陽活動やその電離圏・磁気圏等への影響の観測は宇宙天気センサによって行われます。しかし、宇宙天気センサに用いられる周波数帯は、国際的な周波数使用の枠組みを定める無線通信規則に規定されておらず、保護するための国際的な基盤がないことが課題となっています。このため、ITU では、2015 年以来、宇宙天気センサの適切な認知と保護に関する検討が行われてきました。

今回 WP7C 会合では、宇宙天気を観測する各種センサについて、その特性、使用周波数等の情報を集積するとともに、宇宙天気センサによる電波利用を気象援助業務に位置づけるとの研究結果を収録した ITU-R 報告 RS.2456 の改訂案が完成しました。この改訂案は、WP7C 会合直後に開催された SG7 で承認されました。同報告には、総務省の委託を受けて ARIB が取りまとめ、作成した日本の各種宇宙天気センサの情報や、プラズマバブルと呼ばれる電離圏 F 領域に発生する宇宙天気現象の説明が盛り込まれています。

3. 次回会合予定

次回 WP7C 会合は 2024 年 4 月 8 日~4 月 12 日に開催予定。

ARIB 内会合（10月23日～10月27日）予定

10月25日（水）：技術委員会（放送分野）	Web会議併用
10月27日（金）：デジタル放送システム開発部会 主任会議	Web会議併用
10月27日（金）：スタジオ設備開発部会 スタジオ音声作業班	Web会議併用

国際会合（10月23日～10月27日）予定

予定している会合はありません。



Association of **R**adio **I**ndustries and **B**usinesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp